校友時報

昭和41年9月21日
編集人兼発行所
秋田県能代市畠町迫分2
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 大勝堂印刷所

あす前夜祭

恒例の第七回能高祭は、二十二日前夜祭、二十三、二十四日本祭で発表会、演奏会、展示会などが催される。前夜祭は、午後からクラシックギター、ブラスバンド、エレキギターなどの演奏がある。その後夕暮れとともにグランドで、ファイアーストームを囲み ブラバン演奏にのせて、参加者全員による大合唱、フォークダンスが行われる。フォークダンスは、文化祭の雰囲気を盛り上げ、生徒、全般の友好を深めるためにも 積極的な参加が期待される。

本祭の二十三日は 午前中クラシックギター演奏にはじまり、合唱ブラスバンド演奏などが行われる午後からはエレキギター演奏のあと、恒例の催しとして柔道部主催の演劇「柔」と、その伝統を誇る体操部の公開演技が行われる。この間には演劇部の「猿の手」が演じられる。夕方からは再び 合唱 クラシックギター、エレキギター ブラスバンド演奏が行われ最後に演劇部の「猿の手」が演じられて第一日目は終了。

第二日目は、午前弁論大会、素人演芸会が開かれる。これには、生徒一般を問わずとび入り大歓迎である。午後からはクラシックギター演奏 合唱 ブラスバンド演奏そして エレキギター演奏のあとライナーレに移り、グランドに運びだされた展示物に火を放されて第七回能高祭は幕を閉じることになっている。

校内の展示会は巻山、TRC、英訳、新聞、書道 絵画 科学 写真、PFCの各文化部の他、今年は特に弁論 図書部も加わる。

又ステレオコンサートは視聴覚室において開かれる。ルームデコは一D、一F、二A、二C、二G、三Cの各クラスと個人の計七つが展示される。その他 売店の喫茶も開かれる。売店は前夜祭にはグランドに、本祭には体育館脇に立てられる。喫茶は本祭の間、二Bと二Cで開かれる。今年は昨年の創立四十周年記念祭におとらぬような立派な「祭」にしようと 予算も昨年に匹敵するほど多くとって生徒会はじめ、文化祭実行委員生徒ともども、この「祭」に力を注いできただけに 是非とも立派な実りのある「祭」にしたいものである。

後期役員選挙近し

充実した選挙を望む

昭和四十一年度後期役員選挙が前期役員の任期満了と共に十月上旬に行われる。選挙というと幾人かの候補者がそれぞれの論を意気揚揚としたかわす姿が思い出される。しかし残念なことに本校では候補者が毎回一～二名程度のため華々しい光景をみることはできない。

この対策として選挙管理委員長は選挙を早目に告示して立候補者の勧誘運動などでムード作りに力を入れるといっていた。

ところで生徒会の一大行事であるこの夏休み中放送室の向かいに総工費三十六万円かけて広さ二十九・七平方メートルの面談室が予定通り完成した。この面談室が建てられた理由は、従来まで教師と父兄との懇談や教師と生徒の個人面接、及び進路相談などを行なう時教務室などで面接しなければならなかったので十分に話し合う事が出来なかったからである。面談室が出来た事によってこれらの問題も一気に解消された。今は主に就職関係の人たちのほか、補導部でも生徒指導の為に毎日のように頻んに利用している。使用した人たちには利用価値が大きいとたいへん好評である。また この面談室に生徒が先生と面接したい時に投書する相談箱を取り付けてもらいたいとの要望があり、この事については現在学校側で検討中である。なお経費は全額がPTAからの寄付によるものである。

活用される面談室

生徒会室も設置

夏休みの期間中十三日間にわたって体操場わきに 総工費二十四万円かけて広さ十九・八平方メートルの生徒会室が建てられた。これは前期生徒会長が「生徒会の会室や仕事をする時、いつも物理室を借りている。また荷物も理科教室に置いている状態なので大へん不便である」とのことで学校側へ申込んでいたところ、この程完成したものである。これからの抱負について生徒会長に聞いたところ「少し狭いので大きな会室などに活用することはできないが、企画部の集まりなどには、大いに活用したい」と語っていた。なお この費用は面談室と同様にPTA側から全額寄付されたものである。

クラブ同志の連帯を！

部説

本校のクラブはクラブ同志の〃横のつながり〃あるいは〃連帯感〃というものをどのように感じているであろうか。クラブというものの本来の目的は精神的 あるいは肉体的に人間形成をする場だと思われる。しかし現在のクラブではクラブにいるということは手段ではなく、そこにいること自体が目的であり結果であるように思われる。これではクラブ本来の目的からはずれていることになる。

一つのクラブだけでは人数が少ない上に限られた人だけになり、クラブ運営上の問題やその他色々な問題などが起きた場合どうしても意見、あるいは考え方というものが片寄りがちになりやすく、これでは全く問題解決にならずさらには発展、進歩しなくなるおそれがある。ある意味では、逆に退化することと同じことになるのだ。このような状態ではクラブの向上 学校の発展などということは考えられなくなる。裏を返せば個々人の精神的 肉体的向上は望めないことになるのである。これではクラブにいるということが単なる自的、あるいは結果と考えている人にはなにも感じないだろうが、手段として考えている人などは何もそのクラブにいる必要はないのである。このような場合には他の人 他のクラブの意見や考えを聞くのが一番よいのではないだろうか。そこでクラブ同志の〃横のつながり〃あるいは〃連帯感〃という言葉が出て来るのである。

しかし現在の本校でのクラブ同志の結び付きの状況はどうであろうか、おせじにも良く結び付いているとは思われない。それは各クラブがあまりにも独走的な傾向が強いからである。なぜそのような傾向があるのかといえば 一口にいって各クラブが他のクラブに対しては全く関心を持たず、さらに お互いに無視し合っていることから起きてきたことなのである。しかも、もしこのような状態がいつまでも続くとすれば、必ずいつかは大きな障害に突き当たることは目に見えていることなのだ。このような障害に突き当たることを免れるためにはどうしたらよいのだろうか。それには障害が小さいうちに各クラブが相互に協力し合い、いくらかでもそれを緩和し、早めに取り除くことが必要なのではないか。またお互いのクラブの立場というものを尊重しながらクラブを運営し 問題点を解決し合っていくことが大切なのではないのだろうか。

このように各クラブ同志が手を握り合ったとしたら、クラブ、学校の発展はもちろんのこと、本来の目的である精神的にも肉体的にも充実感を覚え人間形成の上で大いに役立つのではないだろうか。とにかくクラブ同志の〃横のつながり〃あるいは〃連帯感〃結び付き〃というものを頭の中だけで感じ取らないで身体全体で感じてもらいたい。

修学旅行迫る

今年の修学旅行のコースは能代―京都―奈良―大阪―熱海―箱根―横浜―東京―能代と決まった。昨年と違う二班編成で第一班一百八十五人（A・C・E・F三分ノ二）第二班百八十五人（B・D・G・F三分ノ一）に分かれそれぞれ十五・十六日の午前七時に出発する。費用は一人当たり一万一千円である。六泊七日の予定で一日目は車中泊 二日目は京都の名所見物。それを終えてから自由外出で今年も昨年と同じく外泊禁止。三日目はバスで奈良から大阪を見物し その足でまた京都に戻り夜中に熱海行き乗車。四日目はバスでコーラスというのも結構。五日目は横浜を通り東京入り。名所を見学し、夕食を取ってから自由外出。時間内では面会許可だがなにかにも知らない町であるため勝手な行動は慎みたいもの。六日目は都内見物をし上野駅から東京に別れを告げる七日目は周りの景色もだんだんみちのくの気配を見せて能代に着くようにがっちりと計画である。遅くとも一・三年生ともまた月十五日に行くことになっているがまだ行き先は決まっていない。

時評

読書と人生

利部紀夫

残暑の厳しかったことは、よく考えるということである。読書によって知識を吸収の夏も、九月に入ってからは朝夕めっきり涼し 褐野を広め、考えを高め深しくなり、ようやく秋の訪れが 自己の思想を確立していく感じられる昨今である。今こそ のである。私の細り行くは勉学にスポーツにあるいは文 なか考え方のしっかりしている化活動に最も適した時期と言えよう。 人がいるが そのような人はきっと立派な人物になるであろう。

また一方、灯下親しむの候の 読書に身を 染め、学識を広め、深い思索を言葉もあるように 暮れ行く秋 重ねてきているのであろう。

の夜長に 虫の音を聴きつつ ところで私がここで言たいこと 独り読書にふけりたいという者 とは どんなに言うことが立派 も多い。本を読むことにより、 であり考え方がしっかりしていて 未知の世界に踏込み、 も、それを実践できない 未だ自分の考えをはなに のでは、何にもならない 考え込み、理解が行き ということである。我々が何かの研究 届いた時には、深い感 会に出席してみても、 慨にひたることがある。 実践を通さない机上の 読書は誠に楽しくもあり意義深いものである。読書によってどんどん知識が広まって行く。知るということは確かに楽しいことである。私達の周囲にもいわゆる物知りがいる。その人はあたかも自分のみが知っているかのように、とくとく と語り続け聞くことを知らない 私など無知な者には その豪博 さと場能さにホトホト感心させられることがある。

しかし、多くを知ることで満足してはならない。それだけの 知識は百科事典がその役割 を果してくれる。それなら何の 為の読書であろうか。それは思 索の為の読書でなければならない。バスカルの言にまつまでも なく、人間にとって本質的なこ

研究内容が立派なものであっても、全 のように思えても、全 く相手にされないのである。口ではいかにも 尤もらしいことを言 っておりながら現実には、例えば小使いさん は、例えば小使いさん に走らせたり、 酔っては他人に迷惑をかけている人は、本当の人格者とは言えない。やはり実践的な思 索家でありたい。理論と実践とは表裏をなして発展していくものである。

ある見方からすれば 読書は 考える為の素材を提供し、人生 とはその考えを実践する場である。「読書」は しっかりと身 について生きた知識を得るための「生活の知恵」であってほしいと思う。

（教学科）

学生のみせ
キムラヤ
はたまち 2－5535

音楽の店
アサヒ楽器店
畠町 T(2)2275

あらゆる金物
能久金物店
万町 T(2)5344

活力増進
タンパク質補強
菅原牛乳店
出戸沼 T(2)3851

☆☆☆☆
D・P・E
☆☆☆☆
三羊堂
畠町 T(2)4948

メガネ
万年筆
カモヤ
畠町
T(2)3740

文具の店
塚清
畠町 T(2)4351